

おわりに

今後、わが国は開発途上国に対して、「人づくり」を通じての国際協力〔現地型の協力方式（専門家の派遣等）、国内招聘型の協力方式（研修生の受け入れ等）〕はさらに拡大することが予想され、この協力方式の内、後者は前者より量的にも、質的にも増大し一層重要視され、国際貢献の上で大きな役割を担って行く傾向にある。

このような状況下にあつて外国人研修（訓練）に携わる施設や関係者にとっては、日本人研修とは勝手が違い、試行錯誤しながら研修を実施する中にも、やはり種々の問題が生じているのが現実である。

今回の研修（試行）で受講生等はカルチュア・ショックの模擬体験を通して「カルチュア・ショック」を少しなりとも感じたことであろうし、それ相当の免疫ができたはずである。換言すれば、「カルチュア・ショック」ワクチンを注射したことによって“曖昧性への許容度”が高まり、“寛容性”の増大効果が期待できることが明らかになった。

この“寛容性”の増大効果は外国人研修（訓練）で生じる種々の問題のベースの部分を解決するものの重要な要素の一つである。

本報告書が、各関係方面において、外国人研修の実施や、研修の充実向上に役立つ基礎となることを期待し、加えて、これから海外に派遣される専門家の方々にも役立てば幸いである。